

AMJ モスクワ駐在員事務所の紹介

～遊牧商人ラハマン氏奮戦記～

AMJ モスクワ支店は、開設してちょうど2年が経つ。今、ロシア経済が急激に成長している。原油や非鉄、貴金属の国際市況が高騰する中で石油資源や非鉄金属資源を豊富に有するロシアは資源を政治カードに G-8 会議でも存在感を強めている。AMJ の関連市場ではチタンを初め、レアメタルの動向が非常に激しい。そんな中、AMJ モスクワ支店のラハマン氏は、ロシアだけでなくウクライナ、中央アジアなど広範囲に渡り活動を行っている。モスクワ支店の2周年記念の写真と合わせ、モスクワに駐在するラハマン氏を中心に、モスクワ支店の紹介をしたいと思う。

「AMJ モスクワ駐在員事務所にて」

遊牧商人ラハマン氏は怪人である。カザフ国籍だが生まれは新疆省カシュガルに近いシルクロードの出身だ。学生時代には中国新疆と長春とロシアの大学を卒業した知識人でもある。

怪人と言われる所以はロシア語、日本語、ウイグル語、中国語、英語、カザフ語、ウズベク語を自由に操れる語学の天才であるからだ。ラハマン氏はシルクロードカラワン商人隊の一員の末裔かもしれない。特に彼の日本語は普通の日本人も知らない表現まで熟知しておりよく驚かされる。初めて彼と会った時のことだ。天気が急変していわゆる「天気雨状態」になった時に彼は空を見上げて「嗚呼、これは狐の嫁入りですね」と呟いた。

当社には5名の外国籍社員が居るが誰もが「何のこっちゃ？」と驚いた。

もう一つの特徴は何事にもこだわりを持ち続けることだ。彼は絶対に諦めない。

「あわてず、あせらず、あきらめず」をモットーにしぶとく追いかける。

ロシア貿易が好転するのに既に17年が経過する。「熱しやすく冷めやすい」日本の感覚ではロシア貿易の成功は覚束ない。遊牧商人の面目躍如では在る。

(財務・経理担当のオルガさんとラハマン代表)



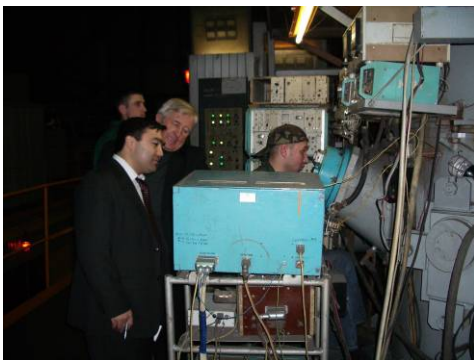


ラハマン氏はかつてウェイトリフティングの選手であった。今も抜群の体力の持ち主で疲れたところを見せたことがない。従ってユーラシア大陸を縦横無尽に駆け巡っても平気である。彼の日常は蒙古の軍隊が千里の馬で伝令を飛ばす様にも似ている。資源の仕事は将に体力勝負だ。個性、スピード、専門性、多様性をAMJの看板にしているが本当のところは体力としつこさかもしれない。

(AMJのロゴをバックに美女と野獣)

「ウクライナ、国立パトン研究所にて」

昨年からラハマン氏はウクライナ通いを始めた。旧ソ連のチタン研究はウクライナで始まった歴史がある。黒海のチタン資源を背景に1960年代に潜水艦や航空機用途に世界最大のスポンジチタンの工場（ザポロージェ工場）が稼働し始めたのだ。現在でも1万トン能力のスポンジ工場の供給余力が注目されている。また、ZTMKのスポンジをEB炉（エレクトロンビーム）で溶解する研究も世界最大規模で溶解工場だけでも3工場を擁し世界最大20t EB炉が9月から稼働している。



世界でスポンジ原料や溶解能力が不足する中でいち早くウクライナに目をつけたラハマン氏は持ち前の行動力で大量成約にこぎつけたのだ。彼はこのインゴットを中国に運び委託加工で中国国内市場や日本市場への売り込みに余念がない。中国のチタン協会の主催の会議ではAMJ・CISグループの西野リーダーとともに日本のチタン事情を講演する(添付資料参考)。今後が益々楽しみである。

(ウクライナ・パトン研究所においてEB炉の溶解研究を視察するラハマン氏)

「ソリカムスク・マグネシウム工場訪問」

ウラル地方のペルミ州には世界最大のマグネシウム鉱山がある。コラ半島に産するローパライト鉱石にはチタン、希土類、タンタル・ニオブが含有されるが、それがここソリカムスク工場で処理されているのだ。電解マグネシウムの副産塩素の有効利用である。

また隣の町に行くと世界最大のスポンジチタンの工場 AVISMA 社がある。ロシアのプーチン政権は資源とエネルギーを外交カードに使い出した。その煽りで民営化の進んだ AVISMA 社も今年から国営企業になってしまった。

ころころ変わる工場の方針に何度も足を運ばなければならない。ロシア名ラフマニノフ氏は今日もユーラシア大陸を飛び回る。



(SMW 前の遊牧商人ラハママン氏)

「2 周年開設記念パーティー」

ウルフラム社はロシア最大のタングステン企業である。ソ連崩壊前は産業省のタングステン部長であったゴルバチョフ氏は何と名前をミカエルという。かのロシアを崩壊に追い込んだ大政治家と同姓同名である。知性があり合理的な思想の持ち主である所までは良く似ている。ロシア人の女性にとって政治家ゴルバチョフ氏は人気がないがタングステンのゴルビー氏は大変人気がある。AMJ の良きパートナーであり将来は合弁の相手として長い付き合いになりそうだ。

(ウルフラム社・ゴルバチョフ社長との面談)





(TVEL のカランティール副社長の訪問)

カランティール氏とは彼のカザフ時代から 15 年以上のお付き合いだ。ダンディーで女性に優しい彼の性格は今も昔も変わらない。オルガさんも彼のファンである。ロシア人の男たちはウォッカ中毒のチョイ悪おじさんが多いと思っている人が多いがそんな事はない。実はカランティール氏のようなフェミニストが多いのだ。そして男たちがカジノに行く時にデカブリストの女たちは心から応援してくれるのだ。「平凡な日常などくそ食らえ」で 3000%のインフレを乗り切ってきたロシアの女たちは一攫千金を狙う男たちにエールを送る。

かくして AMJ を応援してくれる女たちが記念パーティーに集まってくれた。見よ！シャラポアの様な美人などは幾らでも何処にでもいるのだ。残念な事に男たちは後ろの方で遠慮気味だが硬派とマザコンの集いであるから仕方が無い。遊牧商人ラハマン氏が最も不得意な場面だ。

(2 周年開設記念パーティー)

